

## あけぼの会奨励賞

「お母さんが乳がんになったとき」

陶山 美紀子（すやま・みきこ）

17歳／高校生／愛媛県

私の母が乳がんになったのは、私が四歳で保育園へ通ってる頃のことです。まだ私は小さく物心がつく前のことです。この時、まさか自分の母ががんにおかされているなんて思いもありませんでした。母が乳がんだと知ったのは、小学校三年生の時です。本棚にある本を見ると、乳がんの本が沢山ありました。この時、母は乳がんだと分かりました。この頃母が再発して涙を流したのを覚えています。でも母は、私の知らない間に再発を経験し、知らない所で涙を流してきたと思います。その苦しみを分からなかった自分が今でも悔しいです。最初、母の片方だけの乳房を見た時、胸が苦しくて見ていられなかったです。でも、少し経ってから、あの傷は母ががんと闘った証だと、私も頑張らないと思うようになりました。

現在の母はとても元気です。通院で点滴へ行っています。支部長もやっていて、人の話の聞き役になってアドバイスをしているのをよく端で見えています。乳がんの人はここまで元気になれるんだと驚いている部分もあります。

高三になった私は、看護師を目指して五年一貫過程の高校へ通っています。母と同じ病気で苦しんでいる人を一人でも救いたいと思ったのがきっかけです。私が国家試験を受けるのは二年後。看護師になって、ある程度経験をつんだら乳がん認定看護師になろうと思っています。もっと乳がんの専門のことを学び、患者さんの役に立ちたいです。

乳がんは、残念ながら増加傾向にあります。しかも、進行してから病院へ来るケースも少なくありません。乳がんは、自己検診でも分かるので異変を感じたら病院へ行ってほしいです。私自身は、二十歳を超えたら自己検診を行い、三十歳になったら検査を受けに行くこと。女性であること、病気になる確率は0パーセントではないこと。それを心に留めておきたいです。そして、周りの皆に自己検診、検査を受けに行くことを勧めていきたいです。

最後にお母さん。いつも迷惑掛けてごめんね。でも、いつもありがとう。絶対に看護師になるから応援して下さい。体がしんどい時は無理をせずに私に頼って下さい。これからも元気でそのまますの母さんでいて下さい。これからもよろしくお願いします。